

(様式2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 中播磨健康福祉事務所

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	<ul style="list-style-type: none">管内高齢化率は県平均より高いが要介護認定率は低く、現状の維持、健康寿命延伸のために高齢期はもとより中壮年期からの低栄養予防、フレイル対策が必要である。(高齢化率/郡34.6%、県29.3%、姫路市27.4%)(要介護認定率/郡18.8%、県20.7%、姫路市22.4%)高齢者等のQOL向上のために医療・介護・在宅・行政等による食支援連携を充実させていく必要がある。管内の幼児、学童の虫歯有病者率、肥満児出現率は県平均よりも高い傾向にあり、生涯における健康づくりの推進を見据えた幼児期から青年期世代をターゲットとした体制づくりが必要である。(R3年度学校保健統計/5才～11才の全年齢において県平均より肥満傾向児出現率が高い)
今年度の推進方策	<ul style="list-style-type: none">中壮年期、高齢期の健やかな暮らしを支援するため、地域の食育関係機関・団体と行政が連携・協力して低栄養・フレイル対策を引き続き展開する。栄養指導連携ツール(食事形態一覧表)の医療・介護・在宅への活用の促進を図り、適切な食支援によるフレイル対策を行う。生涯における健康づくりの推進を目指して、幼児期から青年期世代の健康を支援する体制づくりを検討する。
成果	<ul style="list-style-type: none">低栄養、フレイル対策の現状や課題を地域の関係機関・団体と共有し、正しい予防知識を提供することで、地域への普及啓発をより波及させることができたと考える。食育関係団体や栄養ケア・ステーション、食関連事業者との連携は、今後の地域の食環境整備の促進に繋がった。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none">住民が生涯を通じて健康的な生活が実践できるよう、関係機関・団体が連携して地域特性に合わせた食育を展開する体制づくりの推進。

2 会議の開催状況

実施日時	①令和5年8月31日(木)14:30～16:10 ②令和6年3月4日(月)14:00～15:30 〈管内行政栄養士連絡会〉
参集者 (団体数及び人数)	①12機関・19人(歯科医師会、歯科衛生士会、栄養士会、栄養CS、いずみ会、在宅医療介護連携支援センター、養護教諭部会、町、健康福祉事務所) ②3機関・4人(町、健康福祉事務所)
協議内容	①栄養・歯科保健対策推進会議(1)R5年度身体状況調査結果について、 (2)各機関での取組み報告、(3)意見交換(幼児期から青年期の栄養・歯科保健の現状と課題について) ②管内行政栄養士連絡会(1)当圏域の栄養・食生活課題と改善方策、(2)情報交換(各町における食育推進事業、フレイル対策、肥満児対策について)
今後の方策	<ul style="list-style-type: none">生涯における健康づくりの推進を見据えた連携体制づくりを整備し、住民に向けた一体的な食育推進に取り組む。

※会議の議事録、参集者名簿を添付すること。

3 食育実践活動の結果

テーマ	地域・職種連携で取組む低栄養・フレイル予防		
対象及び参加者数	①食育推進・健康づくり推進団体 51人 ②一般住民 80人 ③食育推進・健康づくり推進団体、施設職員(病院・福祉) 66人 ④一般住民 55人		
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	①7月3日(月) 13:00~14:45 姫路市医師会館	(1)講話「今よりもっと健康になろう！ ～健康&健康クイズ」 (2)パネル展示、リーフレット配布	(スタッフ) 健康福祉事務所 健康財団
	②11月8日(水) 10:00~12:00 ライフ福崎店	(1)フレイルチェック (2)フレイル予防パネル展示、食事 アドバイス (3)リーフレット配布	(スタッフ) いずみ会、ライフ福 崎店、健康福祉事務 所
	③11月10日(金) 14:00~16:30 中播磨健康福 祉事務所	(1)講話「オーラルフレイル予防」 (2)フレイル予防パネル、摂食嚥下 別食事形態の介護食品、食事形 態一覧表等の展示 食事相談	(スタッフ) 給食施設協議会、健 康福祉事務所
	④11月26日(日) 11:00~15:00 Aコープ栗賀店	(1)フレイル予防パネル展示 (2)リーフレット配布 (3)栄養相談、買物支援	(スタッフ) 中播磨圏域栄養ケ ア・ステーション、 健康福祉事務所
成 果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康づくり推進関係団体等の核となる人材への普及啓発を通じて、各団体から低栄養・フレイル予防に関する情報発信が為され、一般住民への波及により普及啓発が促進すると考えられる。 食育関係団体、栄養ケア・ステーション等との連携による活動を通じて、地域で一体的に取組む必要性を再確認できた。また、スーパーマーケットとの連携は今後の食環境整備の体制づくりに役立つとともに、無関心層へのアプローチに繋がった。 <p>【評価指標と目標値及び達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○低栄養・フレイル対策の現状・課題を共有した健康づくり推進関係団体数 R5：24団体(食育団体、老人会、社会福祉協議会、商工会、PTA校長会、薬剤師会等) ○低栄養・フレイル対策の推進に向けた関係機関・団体との連携状況 R4：4機関・団体 → R5：7機関・団体 連携機関・団体：管内3町いずみ会(神河町、市川町、福崎町) スーパーマーケット2店舗 給食施設協議会、中播磨圏域栄養ケア・ステーション 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・低栄養・フレイル予防事業の継続的な取組(関係機関・団体との連携の促進) ・食の健康課題に取り組むための食品関連事業者との連携強化 		

※プログラムや内容がわかる資料を抜粋し添付すること。

令和5年度 健やか食育プロジェクト事業

～地域の健康課題解決に向けた食育推進～

健やか食育推進会議

〈第1回〉 栄養・歯科保健対策推進会議

日時：R5.8.31(木)14:30～16:10

参集：12機関/19人

(歯科医師会、歯科衛生士、栄養士会、栄養ケア・ステーション、いずみ会、在宅医療介護連携支援センター、養護教諭部会、町、健康福祉事務所)

幼児期から青年期世代の支援に携わる関係者で虫歯と肥満対策を中心に取組み報告と課題の共有を図りました！



〈第2回〉 管内行政栄養士連絡会

日時：R6.3.4(月)14:00～15:30

参集：4機関/7人(町、健康福祉事務所)

内容：

- 神崎郡の栄養・食生活の課題と改善方策について
- 情報交換(低栄養・フレイル対策、肥満見対策、食育推進事等)



栄養士の人材育成やサポート体制、町と健康福祉事務所の連携強化のために連絡会の必要性を再確認しました！

食育実践活動

健康づくり推進関係機関・団体を対象とした研修会 ①

対象：老人クラブ、社会福祉協議会、商工会、PTA校長会、
薬剤師会、栄養士会、いずみ会、食育団体等

〈内容〉

(1) 講話「今よりもっと健康になろう！
～健康&栄養クイズ～」

(2) パネル展示

* 低栄養・フレイル予防 等

健康&栄養クイズ

いろいろな種類の食品を毎日食べよう！
10食品群チェック表

食品群	平日	休	祝	夏	冬	春	秋
① 穀類	○	○	○	○	○	○	○
② 肉類	○	○	○	○	○	○	○
③ 魚類	○	○	○	○	○	○	○
④ 卵	○	○	○	○	○	○	○
⑤ 大豆製品	○	○	○	○	○	○	○
⑥ 牛乳	○	○	○	○	○	○	○
⑦ 野菜	○	○	○	○	○	○	○
⑧ 果物	○	○	○	○	○	○	○
⑨ 海藻類	○	○	○	○	○	○	○
⑩ きのこ	○	○	○	○	○	○	○

「り世代が健康上、気をつけることは予防”(メタボリックシンドローム)
ニア世代が健康上、気をつけることは？

- A メタボ予防
- B フレイル予防

参加者からの声

- ・「さあにぎやかにいただく」さっそく活用して食事づくりをしたいと思います。
- ・食の大切さ、健康の大切さを実感するのですがなかなか実行できません。
- ・日常生活に取り入れられることが多く、実行したいと思いました。等

健康づくり推進関係機関・団体を対象とした研修会 ②

対象：給食施設協議会、栄養士会、いずみ会等

〈内容〉

(1) 講話「オーラルフレイル予防について」

(2) 展示・食事相談

低栄養・フレイル予防パネル

介護食品（摂食嚥下の状況別）

食事形態一覧表（栄養指導連携ツール）



介護食品、食事形態一覧表の展示

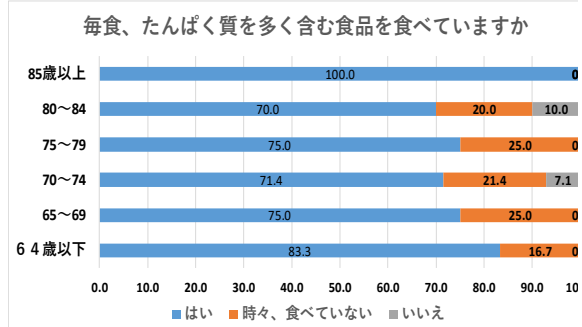
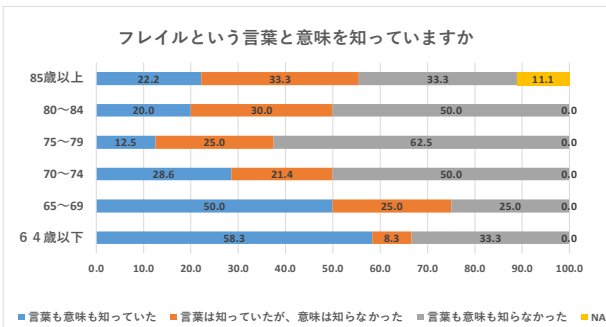


参加者からの声

- ・オーラルフレイルのサインに早く気づき、状況に応じた食支援を行うことが介護予防、健康寿命の延伸につながる事が理解できた。
- ・摂食嚥下レベルに応じた介護食品の展示も参考になった。食事形態を理解することが、在宅、病院、施設等との連携による食支援に大変有効であると感じた。

地域住民を対象とした普及啓発活動（関係機関・団体との連携）

スーパーマーケット・いずみ会との連携



フレイルチェック表の集計から・・・

- ・「フレイルという言葉も意味も知っている」と回答した人は全体の3割。
- ・「毎食たんぱく質を多く含む食品を食べている」と回答した人は65歳以上においては約7割、64歳以下は約8割。
- ・スーパーマーケットとの連携による継続的な普及啓発活動の定着が図れている。

スーパーマーケット、栄養ケア・ステーション、郡在宅医療介護支援センター、栄養士会、薬剤師会等との連携

実施結果・・・

- ・スーパーの協力でカルシウムやたんぱく質等が摂取できる食品の活用提案等、買物客の買物サポートを実施。栄養成分表示の見方や自身の栄養状況に見合った食品の選択ポイントを説明した。
- ・薬剤師による骨密度測定結果を踏まえて栄養相談を実施。骨粗鬆症予防、低栄養・フレイル予防の食事ポイント等、栄養士のアドバイスに熱心に耳を傾けられ、他職種との連携による効果的な活動ができた。
- ・協力スーパーも消費者目線での健康に配慮した食育の必要性について当活動を通じて理解が深まった。



買物サポート